

「庁舎建設基本計画（案）市民説明会」の状況

- 1 日 時 : 平成23年5月22日（日） 午前10時00分から午前11時40分まで
- 2 会 場 : 保健福祉センターゆうゆう館 会議室
- 3 市出席者 : 市長、副市長、総合政策部長、庁舎建設準備室長、室長補佐、建設推進グループ3名
- 4 参加者 : 17名

番号	市民からの質問・意見等概要	市回答概要
1	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積を 24,000 ㎡に抑えた理由は何か。 ・人口について、現在の 60,000 人が 10 年、20 年、30 年後までにどのように推移するのか想定しているのか。 ・職員数について、合理化による削減は、今後委員会などで決めていくものと思うが、今の状況を見ると、こんなに多くの職員は必要ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査の結果などでは、新庁舎を建設すると将来市の財政に相当な影響を与えると考えていることから、経費を抑えた必要最小限の整備を求める意見が多かった。 基本構想の段階からコンパクトな庁舎整備を目指し庁舎の敷地面積を 25,000 ㎡としたが、パブリックコメントで職員駐車場が広すぎるという意見をいただいた。 このため職員駐車場の規模を、当初 300 台としていたものを 200 台程度に見直し、職員のアンケート調査でも現在自家用車で通勤している職員の 4 割程度が他の手段により通勤可能と回答していることから、駐車場規模を縮小するなど敷地面積を抑制することが可能と見込まれるため、基本計画においては 24,000 ㎡とした。（部長） ・人口推計については、総合計画で定めているが、今のところ長期的なものはない。10 年後までは若干の増加傾向が考えられ 62,000 人をピークに、その後減少していくものと想定している。現在、総合計画後期計画を策定しているところであり、その中で検証していきたい。（部長） ・行政改革による職員の削減は想定しており、今回、規模算出の前提となった職員数は、「下野市定員適正化計画」による平成 27 年度までの職員数である。職員数を更に減らせないかとの意見であるが、地方への権限移譲が進んでいく中で職員を増やさないで対応していかななくてはならない。更に努力をしていくことでご理解をいただきたい。（部長）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の対応や意識の低さに対して不満がある。職員の削減を進めるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員全員が同じ意識を持ち、適切な対応できるように、改めて何らかの施策を考え取り組んでいく。 職員の定員に関しては、行政改革大綱に基づき定数削減計画に取り組んでいるところである。毎年退職者の50%補充としており、新庁舎完成の平成27年度末は399人を想定している。定数削減計画の現在の進捗率は計画より若干進んでいる状況であり、引き続き削減に取り組んでいくのでご理解いただきたい。(市長)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の想定外の震災を受け、免震構造は現在考えられる最高の構造と思うが、原発などで問題となった非常用電源の対策について、どのように考えているのか。また、緊急時における水の確保について伺う。 ・ 建築にあたり設計施工は、業者に任せるだけでなく、行政としてしっかりチェックしていくことが必要である。 ・ 職員はできる限り徒歩や自転車での通勤とするとの事であるが、市民もできる限り自転車などで行きたいと思うので、前輪固定式などのしっかりした駐輪場の整備を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年建設している他の自治体庁舎のほとんどが非常用電源を確保している。新庁舎においても他の事例を参考にしながら、電源の確保を図っていききたい。水や食料の備蓄については、新庁舎に備蓄する方法や他の方法で備蓄するなど引き続き検討していききたい。(部長) ・ 施工監理について、庁舎建設準備室には既に技術職員を配置しており、しっかり対応していく。また、栃木県建設技術センターと連携をとりながら確実な施工の確保に努めていく。(部長) ・ 多くに皆さんに今後自転車などを利用していただくために、駐輪場の整備はしっかり考えていききたい。(部長)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁舎建設プロジェクトチームは既にできているのか。なぜ排水は、単独で排水計画分科会としているのか。もっと他にエネルギー、防災、ITなどを分科会に位置付けしないと実際に機能しないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加による「庁舎建設委員会」での検討段階から既にプロジェクトチームはできていたが、その時点では分科会はできておらず、基本計画策定のため5つの分科会を組織した。新庁舎の雨水排水は開発行為の重要事項であるため、分科会を組織し検討してきた。エネルギー、防災、ITなどについては、ご意見のとおりである。今後、地域情報化計画の次期計画の策定などで、新庁舎計画と関連付けしながら整理していききたい。(部長)

	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体の事務量は今後どうなるのか。国からの委託事務などが相当増えると、職員数よりも事務量が庁舎の執務面積に影響を与えらると思う。今までは、執務室が不足してくると駐車場に会議室ができたたりしている。新庁舎は、耐用年数を100年位に考えて免震構造にしていると思うので、道州制なども視野に入れ、今後執務室が不足しないよう、この際大きく建設してもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎の面積については、下野市の人口規模だけでなく国県からの地方への権限移譲の問題も関連する。市民アンケートにおいて庁舎に来る目的は、住民票、印鑑証明、戸籍、税金、年金などの身近なもので8割を占めている。住民票などの交付については、現在コンビニ交付を実施しており、利用の促進を図りながら、庁舎に来なくても用件が済むような取り組みを進めることで、新庁舎建設のコンパクト化を図り経済的に整備していきたい。(部長)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は駅の近くに決まり良かったと思う。少なくともこれから10年位は合併がないものと思っている。行政は30万人規模でないと運営は大変だと考えるがいかか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30万人都市構想はコストパフォーマンスに優れるが、市民目線を考えると15万人規模がバランスは良いと考えている。当初は、消防広域行政圏の5町合併構想があったので気になると思う。合併がひと段落した現時点では、広域連携化が進むものと考えており、当面の合併はないと理解していただきたい。(市長) ・平成の大合併では人口規模が示されていなかった。行政効率だけを単純にみると20~30万人が最も効率的であるが、10万人を超えると市民の顔が見え辛くなってくる。市民目線の行政運営には、行政効率と市民の直接性が最適なバランスになる5~6万人規模がよい。市町村で行った方がよいサービスは、ほとんど市に事務移管されている。残りは専門職員がいないと事務移管できないものだけである。今後は、市においても専門職員を育成していかなければならない。職員定数削減を進めながら、職員の資質向上に取り組み、効率よい行政運営に務めていかななくてはならない。(副市長)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームにアクセス道路分科会があり、自動車及び自転車を考えて検討しているものと思う。自治医大駅の近くは、小金井、石橋を含めマクロ的に考えるとアクセス性は非常によくなったと思う。高齢者などは自転車を利用することが多くなる。各駅に駐輪場があるが、市役所に行くために利用料がかかるのはどうかと思う。また、自治医大駅が東西の境にな 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場の利用については、新庁舎の整備のなかでどこまで駐輪場の整備ができるのか、既設の駐輪場との係わりを精査しながら検討していきたい。(部長)

	<p>ってしまう。駐輪場は駅東にあるため、駅西の市役所に行くために利用料がかかるのか、付近に迷惑駐車が増える問題も含め、よく検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治医大駅の東西を結ぶアンダーパスなどの将来計画があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治医大駅の東と西を結ぶアンダーパス事業は、大変事業費がかかるので困難と考える。今年度から自治医大駅においてもエレベーター設置を進めており、高齢者などの利便性の向上を図るためのバリアフリー事業を進めている状況なので、ご理解いただきたい。(部長)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが利用しやすい人にやさしい庁舎」を基本方針に掲げているが、具体的なすがたになるとこの部分が欠如している。自治医大駅から庁舎敷地までの徒歩や車椅子利用などの歩行者動線について示されていない。動線により新たな整備の検討が必要になるかもしれないので、基本計画で示しておかないと見落とす危険性がある。 ・車椅子による来庁者の利便性向上のため、敷地入口から庁舎玄関までの間は、できる限り短くした方がよい。 議会機能は、車椅子利用者を含め市民が傍聴席に入りやすくするため、また閉会時の市民開放時も利用しやすくするために低層階配置が望ましい。 車椅子利用者の事をしっかり考えた設計にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者動線は、今後国道など道路管理者との協議において、どのように確保していくのか検討していきたい。 (部長) ・市民の皆さんの利用が多い窓口は、低層階の1階に配置しなければならないと考えている。低層階に全て配置することができればよいが、敷地面積と庁舎面積が大きくなってしまう。どこ部署をどこに配置するのかは、今後の検討とさせていただく。 議会機能については、市民の利用頻度からするとやむを得ず中高層階配置になるものと考えられる。 エレベーターの設置などバリアフリーの対応については、設計のなかで十分に検討していきたい。(部長)
7	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎建設プロジェクトチームの分科会議事録は閲覧可能か。 ・今後、市民説明会を開催する予定はあるのか。また、どの時点を考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば、庁舎建設準備室で閲覧できる。 (部長) ・これから、市民の皆さんの意見をいただきながら基本設計をまとめていく。ある程度基本設計がまとまった時点で、市民説明会を開催し説明をしていきたい。(部長)

8	<ul style="list-style-type: none"> ・現3庁舎の窓口機能は残すのか。 ・オアシスポップ館は有効に機能しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口機能は各地区の公共施設に残すことを考えている。ただし、国分寺地区については、現庁舎と新庁舎が近いこと、行政改革の観点から検討していかなくてはならない。長期的にはコンビニ交付などのIT化も視野に入れ、効率化を図っていく必要はあると考えている。(部長) ・有効に機能していると思うが、新庁舎を整備した場合、効率性を上げていかないと行政改革はできないと考えている。市民サービスとのバランスを考え、よく検討していきたい。(部長)
9	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性能について、建築基準法上の重要度係数1.5とあるが、地震規模でいうと震度いくつか。 ・財源にある合併特例債の対象額はどの部分か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震度7を想定している。防災機能を設けることから、災害時における安全な機能の確保のため、建築基準法が定める地震力を割増して耐震性を高めている。(部長) ・合併特例債の対象額について、国はこれまで起債基準を示していた。しかし、今年度基準が廃止されたため、対象範囲が不確定であるが、元利償還金の7割が地方交付税措置される有利な合併特例債を最大限有効に活用していきたい。(部長)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路(小金井西通り)はいつ頃完成するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画に位置付けされているのは、現国分寺庁舎から下石橋の第3工業団地までの区間である。第3工業団地から県道笹原壬生線までの区間は、県が既に事業化しており用地買収は概ね完了したところで、これから工事が進んでいくことになる。市は、県に県道笹原壬生線から現国分寺庁舎までの区間の整備を要望してきているが、第3工業団地から県道笹原壬生線までの区間が完了した後、着手すると回答をいただいている。引き続き、県に早期に着手するよう要望していく。(部長) ・第3工業団地から県道笹原壬生線までの区間は、当初平成24年度開通予定であった。整備の進捗は遅れているが、国道4号を補完するため、道路網整備の位置付けが高い路線であることから、県に県道笹原壬生線から現国分寺庁舎までの区間の用地買収の早期着手をお願いし

		ていく。(市長)
1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路（小金井西通り）の完成に関係するが、サブアクセス道路の整備は、既存の道路を改良するのか、新たに道路を整備するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路（小金井西通り）の西側に市道国 2-13 号線がある。都市計画道路が新庁舎と同時に完成すればよいが、難しい状況である。当面は市道国 2-13 号線から何らかの方法で新庁舎に入るアクセスを整備する。整備にあたっては、将来の都市計画道路を視野に入れながら、整合性が図れるよう計画していく。(部長)

「庁舎建設基本計画（案）市民説明会」質問・意見等の記録

- 1 日 時 : 平成22年5月23日(月) 午後7時00分から午後8時00分まで
- 2 会 場 : 保健福祉センターゆうゆう館 会議室
- 3 市出席者 : 市長、副市長、総合政策部長、庁舎建設準備室長、室長補佐、建設推進グループ3名
- 4 参加者 : 14名

番号	市民からの質問・意見等概要	市回答概要
1	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点を目指すとしている。庁舎建設プロジェクトチームに防災機能分科会はないが、しっかり検討しているのか。大震災以降、市民は防災に対して非常に関心が高いところである。新庁舎は避難所になるのか。 ・一つの庁舎ですべての用事が済まされることが重要とあるが、来庁者の目的は住民票・印鑑証明等を取りに行くことが多く、すべての用事ではない。新庁舎ができると庁舎が遠くなり、自動車で行くことが増えるためエコではない。「すべての用事」の考え方が市民アンケートからでてきているとは思えない。 ・グリーンタウン地区は人口が多いが、JR線路を跨ぐ箇所が少なく非常にアクセスしにくい。国道4号は交通量が相当多く不便になる感じがする。対策を考えているのか。 ・基本方針に市民に親しまれる庁舎とあるが、市民開放・市民交流のため、どのような設備をつくるのか。市民が来て遊べる施設は難しいと思う。イメージが見えない。例えば、県庁舎で物産展をしているが、非常によいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画では、方向性を整理し示したものである。詳細については、専門分野での検討をいれながら整理していきたい。避難所として全く成り立たないものではないが、非常時に災害対策の機能を十分果たす施設としたい。被災時には救援物資を受け入れるところも必要になる。これから十分検討していきたい。(部長) ・現在は3庁舎に業務が分かれており、国分寺庁舎は総務・総合政策・市民生活・議会、石橋庁舎は教育・福祉、南河内庁舎は建設・産業振興となっている。それぞれに、様々な用件で越えさせていただくが、庁舎間の電話連絡だけでは対応ができない細部にわたるものと3庁舎を歩いてもらわなくてはならず、市民の皆さんにご不便をおかけしている。新庁舎では、市民の皆さんの質問・要望等について、出来る限り1箇所に対応していきたいと考えている。(部長) ・グリーンタウン地区と新庁舎を結ぶ道路のうち整備されている幹線道路は、自治医大前の県道のみである。他は狭い踏切である。線路を跨ぐ事業は事業費が大きく容易ではない。今年度から自治医大駅のエレベーター設置事業を実施しており、バリアフリー化により市民の皆さんの利便性の向上を図っていきたい。(部長) ・市民に開放する施設として、会議室などが不足していると考えている。行政と市民の使い分けを検討し、市民同士の交流を促進することができるような部分を設けたい。(部長)

	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性能について、重要度係数 1.5 は、震度いくつ、マグニチュードいくつまでの耐震能力があるのか。前提条件を明確にして設計依頼をしなければならぬと思う。 免震構造の耐用年数は何年なのか。明確にした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 震度 7 を想定している。今回の大震災では津波による被害は大きかったが、建築基準法の昭和 56 年改正による新耐震基準以降の建物は、地震による倒壊が少なかったと見受けられる。今回の地震を受け、国において建築に関する研究会などが立ち上がると思われるので、その動向をみながら対応していきたい。(部長) 一般的に鉄筋コンクリート造の耐用年数は 50 ～60 年といわれている。メンテナンスをしながら長寿命化するように取り組んでいきたい。(部長)
2	<ul style="list-style-type: none"> 市民交流スペースについて、市民に親しまれるものを期待していた。 敷地のメインの入口は何処になるのか。 地権者説明会などの結果、用地確保の見通しはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> これからも、市民の皆さんの意見を受けながら検討していきたい。議会の市民開放については、議会と調整を図り検討していきたい。(部長) 自治医大駅西口から国道 4 号への交差点には、現在信号機が設置されている。新庁舎入口も将来的な信号機設置を視野に入れているので、技術的要件により近接することができない。計画敷地の中間部に 1 町 2 ヶ村で以前利用していた排水路があり、この位置を入口として捉え、国道管理者と交通管理者との協議を進めていきたい。入口と捉えている位置の国道 4 号の東側は歩行者専用道路であるため、T 字路交差点になる。(部長) 現在までのところ、影響部も含めて少し広めに関係者を設定している。今後、用地が絞り込まれることになる。これまで地元自治会の方、関係地権者の方に説明会を行ってきた。基本的には協力的な意向をいただいているところであり、全力を挙げて用地買収に取り組んでいきたい。(部長)
3	<ul style="list-style-type: none"> I T 設備について、基本計画に示されていない。市民に対する効果と職員の事務の効率化を目的に I T を活用すると思うが明確にした方が 	<ul style="list-style-type: none"> 市では、様々な面で情報化施策を進めている。今後、地域情報化計画の次期計画の策定などで、市民の皆さんの意見を伺いながら、いかに

	<p>よい。免震構造であるが、住民データなどはセキュリティ面も考えた方がよい。</p>	<p>市民の利便性の向上と事務事業の効率化を図るか、セキュリティ面も含め、庁舎建設と合わせて検討していきたい。(部長)</p>
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎の維持管理費が、現状とほぼ同額が見込まれるとある。現状の課題において維持管理費にむだが生じているとあり、解決されていないようで違和感がある。コストを下げるために新庁舎をつくるのでないのか。 ・将来の自治医大駅のエレベーター整備、駅西口から新庁舎への道路、歩道の整備はどうなるのか。 ・新庁舎建設、歩道整備などについて、今後、周辺自治会への説明会を予定しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理コストを抑えるための新庁舎建設ということは強く意識している。現庁舎に対し、新庁舎はセキュリティの強化、太陽光発電、非常用電源などの設置を検討している。新たな機能を追加してもメンテナンス経費の節減に努め、現状以上とならないよう取り組んでいきたい。(部長) ・自治医大駅のエレベーターの設置事業は今年度から実施している。西口と東口の両方に設置され、高齢者などの利便性の向上を図る施設となる。駅西口ロータリーから国道4号までの区間は、市の管理である。国道は国が管理している。バリアフリーは意識しており、今後、国道など道路管理者との協議において、どのように整備していくのか検討していきたい。(部長) ・新庁舎建設についての説明会は、今回の様な市民全体を対象とした説明会と建設地に直接関係する笹原自治会並びに地権者に対して説明会を行っている。今後も同じようなことで実施したい。(部長)